

## 成果物 1-2

### ゼミナールに係る報告書

特定非営利活動法人子どもリエゾンえひめ

#### 1. 実践内容

(1) 里親、里親に関心のある方を対象に、子どもの育ちを支えるために必要な知識やスキルを学べるセミナーを開催し、子ども一人一人の権利を大切に、安心して過ごせる環境づくりのためにできることを一緒に考える機会とする。

#### (2) 開催概要

・第1回「困り感のある子どもへのかかわり方」

講師: 江戸卓郎氏(児童発達支援センターくすみ園 児童発達支援管理責任者)

開催日時: 2024 年 12 月 14 日(土) 10 時～12 時

会場: 河原医療大学校 2 階 視聴覚室

参加者: 16 名

・第 2 回「こども家庭の現状・課題と求められる新たな子ども家庭福祉～保護から養育へのパラダイムシフト～」

講師: 加賀美尤祥氏(社会福祉法人山梨立正光生園 理事長)

開催日時: 2025 年 2 月 1 日(土) 10 時～12 時

会場: 河原医療大学校 8 階 講義室

参加者: 57 名

・第 3 回「家族のかたち」

講師: 宇佐美まこと氏(小説家、松山市在住)

開催日時: 2025 年 3 月 15 日(土) 10 時～12 時

会場: 河原医療大学校 2 階 視聴覚室

参加者: 24 名

・特別講義「乳幼児保護のこれから」(フォーラム第二部として開催)

講師: 河野洋子氏(NPO 法人 chields 代表理事)、柴田智美氏(NPO 法人 chields)

開催日時: 2025 年 2 月 22 日(土) 15 時 30 分～17 時

会場: 河原医療大学校 8 階 講堂

参加者: 40 名

・特別講義「『こどもの権利擁護』を深堀る」

講師: 久保健二氏(福岡市 子ども総合相談センター課長、弁護士)

開催日時: 2025 年 3 月 15 日(土) 10 時～12 時

会場: 河原医療大学校 8 階 講義室

参加者: 56 名

## 2. 評価(アンケート結果)

### ・第1回

#### ①参加者の属性

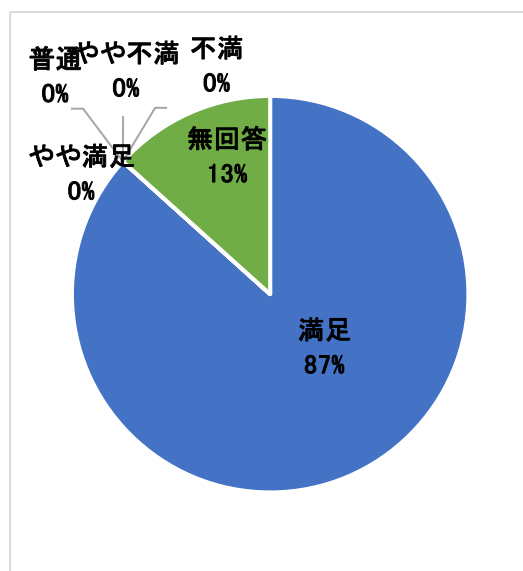
里親:7名      ファミリーホーム:2名

児童福祉関係:4名(施設／認定こども園／保育園など)

行政関係:1名

その他:1名

#### ②満足度



#### ③感想

・一人で抱え込まないで、と言われた先生の言葉は、親にとって大きな支えになると思いました。悩んでいるお父さん、お母さんに伝えてあげたいです。

ペアレントメンターなどの活動があることも初めて知りました。

・江戸先生が、毎日子どもの心に、その発達にワープして、同じ目線で支援を繰り返し広げているので、すべてのエピソードがおもしろかったです。今、対応に苦慮している大人ケースへの気づきもありました。楽しいお話でした。

・その子に応じた接し方、コミュニケーションの大切さ、その子の能力や特性を活かすことの大切さがよく分かりました。障害の有無にかかわらず、自己肯定感を育てる関わりをしていきたいと思いました。

・事例の提示があり、内容もすぐ分かりやすく、エピソードもかわいく、ほっこりしました。保育現場で働いていますが、関わり方をもう一度見直し、子どもに寄り添った温かい保育を心がけようと思いました。よい経験になりました。

・困り感のある子どもとの関わりについて学びました。‘わがまま’と思うのではなく、‘個性’と考えるのが良いとよく言われますが、将来的に‘ハンディ’になるのでは…とも考えていました。しかし、未来を憂うのではなく、今を見ていきたいと

思いました

・第2回

①参加者の属性

里親:5名

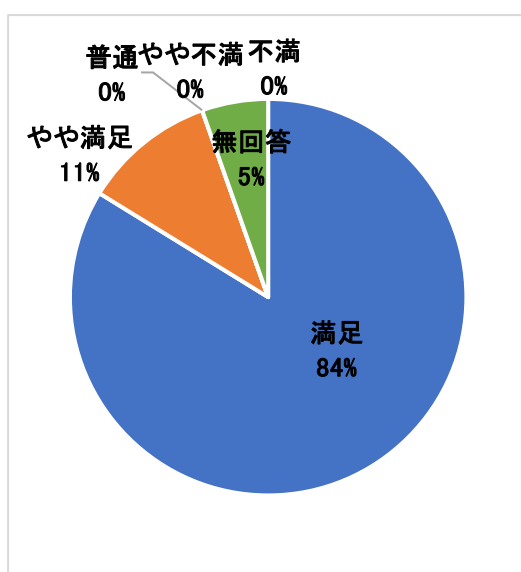
児童福祉関係:8名(FH2、施設6)

行政関係:2名

その他:19名(学校、里親希望、企業保健師、病院、心理士、県議の紹介)

無回答:3名

②満足度



③感想

- ・私は主に中・高生に関わっていますが、変えていくのはとても大変で、やはり、小さいころからの関わりが必要だと思っています。今日のお話で、できれば、小さい子の受け入れができる体制を整えてほしいと思いました。
- ・子ども虐待のニュースは、日頃から心を痛めています。自分も、子どもを育てる間、手をあげることがありました。しかし、理性が働いて反省し、家族にも支えられて、無事に育児を終えることができました。また、家族、父母、義父母の力も大きかったです。皆で育てることが大事だと改めて思いました。
- ・6歳までのアタッチメント形成が大切だというのは、自分の子どもを見ても感じます。大人になって、社会のいろいろな場面で人間性が出てくるようです。
- ・社会を健全化するためには、子どもの健全化がとても大事だと思いました。保護から養育への必要性を感じ、愛情をたくさん与えられるよう、自立した子どもになれるよう、私にお手伝いできることがあれば、応援させていただきます。
- ・今の若者が、人との対話ができづらいと実感するが、スマホの普及のせいかと思っていました。小さいころからの環境も大きな要因だと気づきました。子どもの頃の生活環境が重要だと改めて気づきました。

### ・第3回

#### ①参加者の属性

里親:2名

里親希望:1名

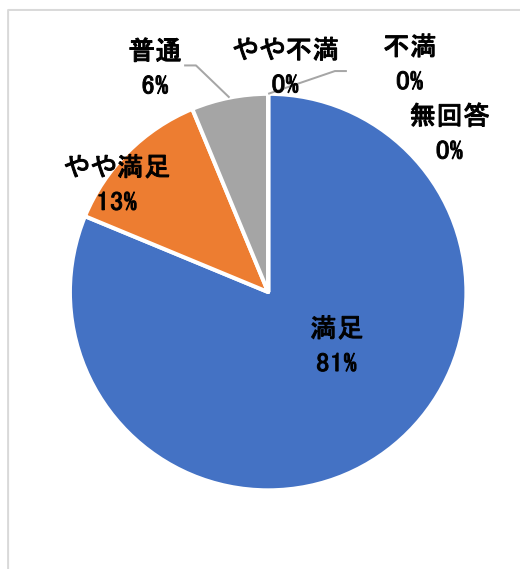
児童福祉関係:1名

行政関係:0名

その他:11名(大学職員1／教育関係1／保健師1／里親考え中1／NPO1  
／記載なし6)

無回答:1名

#### ②満足度



#### ③感想

・今日のご講演をお聴きして、家族とは何か、子育てとは何かということを改めて考えさせられる良い機会になったと思います。ご講演の中でヒントになる言葉やすてきな心に残る言葉をお聴きすることができ、今日参加させていただいて本当によかったです。

・愛情の貯金、子どもの今に向かい合うことが大切だということに改めて気付かされました。今後は積極的に関心を持っていきたいと思います。

・子ども(里子)たちはネグレクトなので、何でも体験をと思い、季節行事、旅行などできる限りのことをしてきました。愛情の貯金になっていることを願ってます。今日のお話はどれも心が軽くなりました。ありがとうございました。

・子どもの目線、すごく大切だと思います。それを大切にしながら子育てをがんばっていききたいと思います。

・宇佐美先生の小説は広く深い視点で物事をとらえ、最後には小さな光を見せて下さるところが大好きです。親しみやすいお人柄がお話からも伝わり、ますます

ファンになりました。

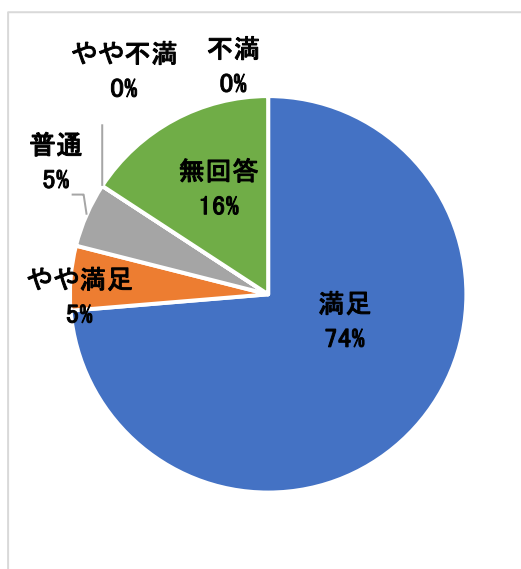
・特別講義①(2月22日)

①参加者の属性

里親、里親希望者

施設職員、児童福祉関係職員、学校関係者、一般

②満足度



③感想

- ・さまざまな困難や課題に直面しながら、先進的な事業に意欲的に取り組んでこられたことに感銘を受けました。
- ・すばらしい取組で、全国展開していくべきだと思いました。将来、可能な時期になれば、必ず自身も取り組んでいきたいです。
- ・里親のことを知らない上に、里親にはさまざまな種類があることも初めて知りました。さらに、施設のすみ分けはもちろん、乳幼児緊急里親事業についても深く知ることができました。この仕組みが全国的になるとともに、自身の力も何かに生かせるかを考えたいです。
- ・チーム大分の子ども支援はすばらしいです。チームえひめができれば、愛媛の里親支援も幅広くなるのでは？と思いました。「いつか」ではなく、「今」やる必要があることかもしれないと思いました。
- ・里親制度の具体的なことについて知ることができました。里親制度を現実的に機能させるには、持続可能なシステムやルールを構築することが大切だと感じました。
- ・実際の取組、活動状況を知ることができて良かったです。お二人の先生がとてもチャームングでした。お話に引き込まれました。

・特別講義②(3月1日)

①参加者の属性

里親:1名(児童福祉施設職員)

里親希望:1名

児童福祉関係:8名(認定こども園職員2／保育士4／放課後学校職員(里親希望)1／施設(里親)1)

行政関係:3名

その他:14名(助産師会(里親希望)1／愛媛医療センター1／病院1

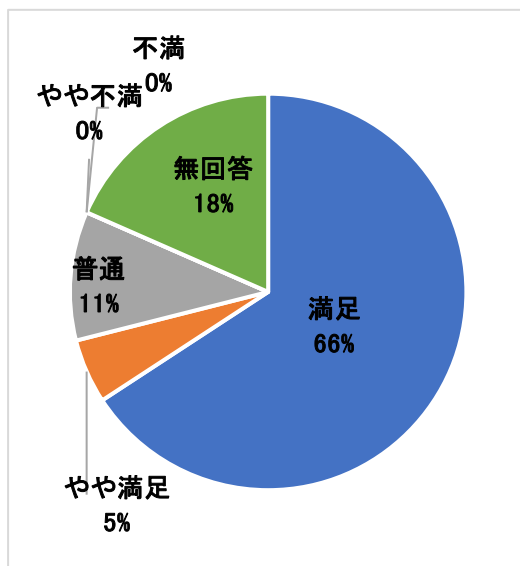
司法書士4(里親1、青年後見センター1)

民生児童委員2(保護司と児童クラブ支援員兼任1)／里親応援1／

高齢者1関係者の知人1／記載なし2)

無回答:11名

②満足度



③感想

・法律の、子どもの権利を守るための論理と、子どもを取り巻く現実の間に、割り切れない複雑さがあるんだなあと思いました。それでも、最善の利益を模索されている様子に感銘しました。

・幼児教育の現場で仕事をしており、児相より電話が入ります。登園の様子や子どもの様子、親の関わり等、さまざまなことを月1回報告しております。できる限り、子どもを真ん中にと考えておりますが、様々な対応に困ることもあります。このような研修はありがたいです。もっと具体例がありましたら、お聞かせ下さい。

・真実告知についてのタイミング、早めに話していくことに納得はしますが、難しいのでは、と、やはり考えてしまいます。

・子どもの人権保護という特殊な対応を行う専門的な弁護士は必要だと思いまし

た。

(全体の振り返り)

- ・全講義とも概ね好評を得ることができた。
- ・里親支援センターとしての関わりもあり、里親の参加人数が増加した。
- ・里親登録前の段階からゼミナールを受講いただいた方もおり、今後のアセスメントの参考とすることができた。
- ・児童福祉関係者や行政関係者にも多く参加いただき、つながりを作ることができた。
- ・参加者とともに職員も多くを学ぶことができた。今後の研修開催へ向け、職員のスキルアップにもつながった。

### 3. 課題

- ・里親のスキルアップにはレベルが高かったかもしれない。今回は広く様々な講師を招致し、児童福祉、行政の関係者、法人職員も多く学ぶことができたが、今後はより里親向けの研修が必要と感じた。
- ・集客に苦慮する回があった。また、他の研修と同日になることがあるなど、参加してほしい層が参加しやすい日程の設定について検討が必要。

### 4. 今後の対応

- ・アンケート結果等を活かして内容の検討をする。
- ・6 年度に職員が受講した研修も参考にし、より里親のスキルアップに注力した研修の組み立てをする。
- ・日程調整など、各研修やイベントの日程を早めに検討する。他団体の研修情報なども確認しながら設定する。

以上

作成日: 令和 7 年 3 月 28 日